

ナミビア月報

(2023年4月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- LPM 及び NEFF 党首の留任宣言
- フィッシュロットスキャンダル逃亡者の現状
- ナミビアのガバナンス指数の低下
- 保健部門への予算割当
- SWAPO 事務局長の発言
- IPC 党首の大統領選に向けた発言
- 内閣からの政策実行指示

【経済】

- 観光客の増加
- 中国への牛肉輸出の増加

【外交・対外関係】

- 中国国家エネルギー局長のナミビア訪問
- ナミビア・ボツワナの国境ポスト稼働
- 虐殺記念館設立に関する議論
- マラウイ政府への寄付
- ガインゴブ大統領の南ア国賓訪問
- フィンランド大統領のナミビア国賓訪問

【その他】

- ナミビアにおける食料危機

【内政】

●LPM 及び NEFF 党首の留任宣言

新しく設立された政党 LPM (Landless People's Movement、2017 年設立、前回選挙 4, 75%の得票、4 議席) と NEFF (Namibian Economic Freedom Fighters、2014 年設立、前回選挙 1, 66%の得票、2 議席) の党首は、自分たちの政党のリーダーシップの変化を受け入れるつもりはないと述べた。 Henry Seibeb (LPM) は、LPM は民主的な政党だが、民主主義は指導されなければならないと述べ、指導者交代に賛成する人は、自分

たちの政党を立ち上げるべきだと話した。Longinus Iipumba (NEFF)は、指導者の交代が党の死につながることを恐れていると述べた。(3月31日～4月6日付コンフィデンテ紙2面)

●フィッシュロットスキャンダル逃亡者の現状

フィッシュロットスキャンダル関連の容疑により、南アに逃亡中のマレン・デクラークは、ファーストネームをマイケルに変え、長年の妻と離婚し、ずっと若い新恋人を見つけたようだ。また、自身の知名度回復のために広報とブランドのスペシャリストを雇った。ナミビア当局は、これらの行動は、彼のアイデンティティを変えることを、世間に浸透させることを意図していると疑っている。(3月31日～4月6日付コンフィデンテ紙3面)

●ナミビアのガバナンス指数の低下

フィッシュロットのスキャンダルが発覚して以来、ナミビアはイブラヒム・アフリカン・ガバナンス指数 (IIAG) で4位から8位に転落した。IIAGは毎年発表される複合指数で、アフリカ諸国のガバナンスのパフォーマンスを統計的に測定することができる。IIAGによると、ナミビアは、人間開発、経済参加、権利と包摂の面で改善が遅れており、治安と法の支配では悪化している。一方で、アフリカで最も統治が行き届いている国のトップ10に入り、経済的な展望も開けている。(5日付ナミビアン紙5面)

●保健部門への予算割当

ナンゴンベ保健・社会サービス省次官は、ナミビアは現在、国家予算の15%以上を保健部門に割り当てているアフリカの数少ない国のひとつであり、必須医薬品及び一般的で安価な保健サービスを提供するユニバーサルヘルスケアを目指していると報告した。同予算を平均すると、一人当たり約6,500ナミビアドルに相当する。(14日付ニュー・エラ紙3面)

●SWAPO 事務局長の発言

シャニングワ与党 SWAPO 事務局長は、党員は SWAPO が過半数の票を獲得するために全力を尽くすべきと述べた。2019年の前回国民議会選挙において、SWAPO の得票率は約65%まで落ち込んだ。同じく2019年の前回大統領選挙では、ガインゴブ大統領 (SWAPO) の得票率は約56%と、2014年の大統領選挙の際の得票率87%を大幅に下回る結果であった。シャニングワ事務局長はまた、アフリカ中の解放運動が攻撃を受けており、長老たちは党の若者を指導し、かつての力を得るべきだと主張した。(17日付サン紙3面)

●IPC 党首の大統領選に向けた発言

イトゥラ IPC (Independent Patriots for Change: 変革を目指す愛国者達) 党首は、2024 年の大統領選挙にのみ立候補し、同党の国民議会議員リストに自分の名前は掲載されないと述べた。イトゥラ氏によれば、両職を兼任するのは通常のやり方ではないという。イトゥラ氏のアプローチは、大統領選に立候補しながらも国会議員になる事を目指す他の野党とは一線を画している。(20 日付サン紙 1 面)

●内閣からの政策実行指示

ムシェレンガ情報・通信技術省大臣は、社会福祉省が、限界集落に対する社会助成の適用範囲を拡大し続けることを、内閣が承認したと発表した。また、内閣は首相府に対し、クネネ州、エロンゴ州、オムサティ州の一部で干ばつ救済プログラムを延長するよう指示し、農業・水・土地改革省に対しては、作物や家畜の活動に依存する地域で、強靱性と気候に配慮した農業生産を引き続き促進するよう指示した。(21 日付ナミビアン紙 3 面)

【経済】

●観光客の増加

ナミビアは過去 2 年間、観光客数の伸びを記録した。2022 年の数字では、2021 年に比べて観光客数が 4,6%増加しており、観光部門はロックダウンの悪影響から徐々に回復している。その結果、政府は 2023/2024 会計年度の同省の予算を 5 億 7000 万 N\$ (16%増) に増額することを決定した。(3 日付サン紙 4 面)

●中国への牛肉輸出の増加

農業・水・土地改革省は、今後中国への牛肉輸出が増加すると予測している。国営企業である MEATCO は現在、中国に牛肉を輸出している唯一のアフリカ企業として承認されている。(11 日付ニュー・エラ紙 1 面)

【外交・対外関係】

●中国国家エネルギー局長のナミビア訪問

3 月 31 日、章建華国家エネルギー局長は、ガインゴブ大統領と会談した。章局長は、中国がナミビアの豊富な資源を経済成長と発展に転換させることを支援したいと約束した。また、中国の企業に対して、ナミビアへの投資を促すと述べた。章局長はまた、フサブ鉱山とロッシング鉱山にはすでに約 46 億米ドルの中国からの投資があり、その結果、ナミビアの GDP に 21 億米ドルの貢献がなされたことを紹介した。ガインゴブ大統領は中国からの代表団に対し、ウィンウィンの関係を確実に構築するよう提言した。ガインゴブ大統領はまた、「ナミビア人の中には、反中国的な態度をとっている者もいるため、政府間で協議するのは良いことである」と語った。過去には、ナミビア経済

自由戦士団（NEFF）が、もし政府がアジア諸国の企業を優遇し続けるなら、中国人に対する「集団排外主義」を煽ると宣言したこともあった。同党は昨年、ナミビアに進出する中国系小売業者を制限するデモを行い、中国人が所有・管理するショッピングコンプレックスでナミビア人労働者が搾取されていることを訴えた。同デモ参加者の1人は、「私たち貧しい黒人は、400 ナミビアドルの低賃金で、福利厚生や労働者特権もなく、動物のように搾取されている。」と述べ、中国の雇用主に対して、彼らに雇用されるすべての労働者に雇用契約を提供するよう呼びかけた。中国系企業の従業員の中には、上司の手によって重大な権利侵害に直面していると言う人もいる。月給は500Nドル程度で、福利厚生や休暇はなく、病欠すると200Nドルが差し引かれると言う者もいる。（3日付ナミビアン紙1面、3日付ニュー・エラ紙9面）

●ナミビア・ボツワナの国境ポスト稼働

ナミビアとボツワナの間のトランスカラハリ国境ポストが、両政府の合意により、毎日24時間稼働することとなった。現在、毎月推定8,800台の貨物トラックと約150億Nドル相当の物資がこの国境を通過している。（3日付ニュー・エラ紙3面）

●虐殺記念館設立に関する議論

1904年から1908年にかけてドイツ軍が行ったナマ族とヘレロ族65,000人～80,000人の虐殺について記憶するために、ナミビアに虐殺記念館を設立することに賛成する議員もいる。カウアンデンゲNUDO（国民統一民主機構）党議員は、まず自分はナミビア人である前にヘレロ人であると主張した。サム・ヌヨマ初代大統領は、ナミビアはすでに大きく分断されていると主張し、部族主義に警鐘を鳴らした。さらに、虐殺はナミビア全体に影響を与えたとし、すべてのナミビア人に統一を目指すよう促した。（13日付ナミビアン紙3面、13日付ニュー・エラ紙1面）

●マラウイ政府への寄付

ナミビア政府は、熱帯性サイクロン「フレディ」とコレラの蔓延による人道上的悪影響に対処するため、マラウイ政府に186万ナミビアドルの寄付を行うことを承認した。（11日付ニュー・エラ紙9面）

●ガインゴブ大統領の南ア国賓訪問

20日、ガインゴブ大統領は、ナミビアの国家元首としては11年ぶりとなる南アフリカを国賓訪問した。今回の訪問は、ラマポーザ南ア大統領の招待によるもので、隣国の様々な二国間プロジェクトについて話し合うことを目的とする。冒頭の挨拶において、ラマポーザ大統領は、新型コロナウイルス感染症の蔓延が世界中の生活と経済活動に壊滅的な影響を与え、その回復には時間がかかると述べた。会議は南アフリカの行政首都プレトリアで開催された。ラマポーザ大統領はさらに、3月に行われた第3

回南アフリカ・ナミビア二国間委員会の作業内容を評価し、ナミビアと南アフリカは次の委員会に備えて、二国間の既存のすべての法的文書の監査を行うべきであると述べた。(21日付ナミビアン紙2面、21日付ニュー・エラ紙1面、21日付サン紙3面)

●フィンランド大統領のナミビア国賓訪問

26日～28日、ニーニスト・フィンランド大統領は、ナミビアを国賓訪問する。ナミビア訪問プログラムには、ガインゴブ大統領との公式会談、英雄の丘での献花式、クーゴンゲルワ＝アマディーラ首相やカチャビビ国民議会議長との会談が含まれている。フィンランドはナミビアの貿易相手国上位20カ国に入っており、フィンランドの大統領が最後に国賓訪問したのは、2011年のタルヤ・ハロネン元大統領の訪問である。昨年、ナミビアのフィンランド市場への輸出総額は、2021年に記録した7億8500万ナミビアドルから18億ナミビアドルとなった。一方、ナミビアのフィンランドからの輸入は、2021年に記録された3億8900万ナミビアドルから2022年には11億ナミビアドルに増加した。(25日付ニュー・エラ紙3面)

【その他】

●ナミビアにおける食料危機

WFPの最近の報告書によると、ナミビアにおいて37万6千人が食糧危機に直面していると推測される。同人数は全人口の14%に相当し、その内6千人は緊急的レベルにある。WFPは、昨年9月～12月にWFPが実施した同分析によると、東カバンゴ州、西カバンゴ州、オマヘケ州、オシコト州が危機的レベルにある。ナミビアは栄養失調、微量栄養素欠乏、栄養過多という3つの問題を抱えており、5歳以下の子供の約24%は発育不全にあり、女性の21%及び子供の48%が貧血に苦しんでいる。食糧不足に直面している32,493人は現金支給や食料バウチャーの支援を受けている。(19日付ナミビアン紙1面)。

(了)